

2018年5月28日(月)

英会話道場イングリッシュヒルズ
文書教材

人類で初めて月面着陸を経験したアメリカの宇宙飛行士、
ニール・アームストロング

生井利幸

◆導入

本教材では、受講生の皆さんに、「他の人間の特殊な経験について、自己の経験として“類推適用する”」という学習を行っていただきます。

以下の記述について、これを他人事として捉えず、「自分のこと」として捉え、たっぷりと時間をかけて深い思索を試みてください。

◆本文

2012年8月25日、人類で初めて月面着陸を経験したアメリカの宇宙飛行士、ニール・アームストロングさんが死去しました(享年82歳)。

船長としてアームストロングさんが搭乗したのは、アポロ11号。1969年7月20日、彼は、人類史上初めて月面に降り立ち、そこで、「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ」という言葉を発しました。

人類史において極めて重要な意味を成したこの日、アポロ 11 号船長・アームストロングさんは、「“若干 38 歳” という若さ」でした。

当時、人工衛星すら打ち上げた経験のない日本に住む日本人にとって、

「38 歳という若さで宇宙を飛行」、
さらに、
「月に到着し、そこを歩く」

という事実は、まさに“超大国アメリカ”ならでの歴史的偉業であり、自分たちの日常生活では想像できない「夢のまた夢」の出来事でした。

アポロ 11 号の打ち上げは、米航空宇宙局（NASA）における大勢のスタッフをはじめ、多方面にわたる協力・支援がなければ実現できなかった大事業です。今、わたくしがここで注目したい事実は、アームストロング船長自身、この人類初の「超・経験」(transcendental experience) を、実に、「82 年という人生のスパンの前半（38 年目）」で経験したという事実です。

一般的な日本人にとって、「38 歳」という年齢は一体どのような年齢でしょうか。普通の生活をしている人にとって、「38 歳で『人類』を背負う」という意識がどのようなものであるか、そう簡単に認識・理解することはできないでしょう。

わたくしは、今ここで、皆さんに一つ提言したいと思います。それは、

「まず第一に、自分自身をこの地球に存する一個の人間として捉え、『アームストロング船長が 38 歳で備え、そして、実行したプロフェッショナリズム』を心の中で想像し、『自分にとってのプロフェッショナリズムとは何か』について考えてみる」

ということです。

日々、雑多なノイズ・ネオンに囲まれて生きている人々にとって、アームストロング船長のプロフェッショナリズムについて考えることは、(1)「人類にとっての『今日』」、そして、(2)「人類にとっての『明日』」について考える上で極めて重要な意味を持つものであると、わたくしは捉えます。

皆さん、今、是非、「人類」という目線で世の中を見据え、「地球に存する一個の人間」として自分を捉えてみてください。そうすることで、「自分は一体何のために生きるのか」、そして、「自分は一体何のために仕事をするのか」について、“具体的に、且つ、鮮明な形”で見えてくるでしょう。

受講生の皆さんにおける「国際的教養の質」は、このあたりの問題意識の存否によって、相当異なるものとなっていきます。